# ロータリーの根幹をなす職業奉仕から生まれた米山、ロータリー財団という果実

国際ロータリー第2510地区
2011－2012年度 ガバナー **熊 澤 隆 樹**（小樽RC）

私の公式訪問も地区大会までに72クラブ中４分の３を終えるまで進んでおります。訪問の時の各クラブ役員のご協力に感謝致しております。ご訪問させて戴いたクラブはどこもそれまで築かれてこられたクラブの伝統を守られ、堅実な奉仕活動を続けられていることに敬意を表します。

ロータリーを一本の樹に喩えてロータリーの職業奉仕の重要性を話されることがあります。クラブ奉仕という「根」から吸収された「水」と「栄養」はロータリーの根幹といわれる職業奉仕の「幹」に入り、「幹」の中にある「奉仕の理想」という導管を通って「社会奉仕」、「国際奉仕」、「新世代奉仕」という枝や葉に届き、そして「ロータリー財団」という「花」を咲かせます。そして多くの「実」を結びます。ですから根幹をなす職業奉仕の重要性がこの話からよく理解できると思います。

職業奉仕を「内なる職業奉仕」と「他者への職業」と二つに分けて話されることがあります。前者はロータリアン自らの職業倫理を高めることでその目的を達し、後者は他者への職業奉仕として自己の経験を進んで社会に還元することであります。私は、ＲＩ長期計画の第３の柱とした「公共イメージの認知度の向上」に「職業奉仕を強調する」ことが入っていることに注目しています。

ロータリーのクラブ例会は、自分たちのクラブの中にどんな職業の方がいるか互いに認識する場でもあります。クラブ会員は本当に信頼できる仲間なのです。その胸につけているバッジは、私は信用してよいですというメッセージを出しており、それはこれまで永年培ってくれた先輩の努力の賜物であります。それは「超我の奉仕」、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」を奉仕の実践哲学とし、なお実践行動には「四つのテスト」を行ってきた信頼によるものでもあります。

話は変わりますが、ご存知の通り「(財)ロータリー米山記念奨学会」は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し国際理解・平和と親善を深めるために、全日本のロータリアンの寄付金を財源として奨学金を支給、援助する民間最大の奨学団体です。この奨学金の特徴は奨学生に対するカウンセリング（世話クラブ及びカウンセラー制度）その他留学の目的を達成するための色々な補助を行っております。当第2510地区では今年度17名の奨学生に支給しておりますが、地区個人寄付額について１万6,000円（昨年度は１万4,000円）をお願いしたいと思っております。

ポール・ハリスが生前からスタートさせたロータリー財団は没後大きな発展を遂げましたが、最初の目的である教育支援の制度が、今や様変わりする中、日本の米山記念奨学会はその主旨をしっかりと守っています。未来のために大切な教育を世界に発信続けましょう。